

令和8年度
第40回 少年の主張甘楽町大会

発表文集



甘楽町教育委員会

目次

(敬称略)

ページ

◆最優秀賞

- ・ 人と繋がる …………… 甘楽町立甘楽中学校三年 高橋 季歩 1
- ・ これからの時代と和菓子 …………… 甘楽町立甘楽中学校三年 山口 啓太 4

◆優秀賞

- ・ 勉強の必要性 …………… 甘楽町立甘楽中学校一年 黒澤 千晶 7
- ・ 言葉とは …………… 甘楽町立甘楽中学校一年 堀 口 渚 紗 10
- ・ 自分のありのままで生きる …………… 甘楽町立甘楽中学校一年 町 田 芽 生 12
- ・ 「ごめんなさい」よりも「ありがとう」を …………… 甘楽町立甘楽中学校二年 堀 込 彩 光 14
- ・ 明日への価値 …………… 甘楽町立甘楽中学校二年 林 愛 莉 17
- ・ 命の重み …………… 甘楽町立甘楽中学校二年 森 田 花 絵 19
- ・ 自分への挑戦状 …………… 甘楽町立甘楽中学校三年 黒澤 美 琴 22

*原文のまま、各賞ごと学年順に掲載しています

人と繋がる

甘楽町立甘楽中学校

三年 高橋 季歩

「繋がり。」授業やCMでもよく耳にすると
思います。皆さんは「繋がり」と聞いて、誰を思
浮かべますか。

人と人との繋がり生きていく上で必要不可
欠なものです。

しかし最近、私たちは人との繋がりが薄くなっ
ているのではないかと感じます。そう思うよう
になったきっかけは、ある漫画の巻末に書かれ
た脳科学者の方のコメントでした。

「最近の子は、人との繋がりが薄くなって
いるがゆえに『自分の周りに他の人がいる』例
えらな天動説のような考え方になってしまっ
ている。僕は『自分は自分だけど、社会の一
員でもある』」

つまり、地動説のような考えになってほしい。」

私はハッとしました。確かに私も先生の言
う「天動説」自分中心の考え方だったかもし
れないと思います。皆さんはどうでしょう
か。

もしも、世界中の人がこの自分中心の「天
動説」の考えになってしまったら、私たち
の繋がりは今よりも薄くなり、互いを思
いやれず、全員が孤独を抱える寂しい世
界になってしまいます。人との繋がりに
ついて、内閣府のアンケート結果では、
「孤独を感じる」と回答した人は全体の
半数近くを占めていました。

また、二十代において「地域の繋がりは
強い」と回答した人はなんと、全体の
20%でした。これは若い世代ほど人
との繋がりが薄くなり、孤独を感じる
人が多い傾向にあるということです。

私は疑問に思いました。そもそも、なぜ
若い世代の繋がりが薄くなっているのか
。私たちが日々使っているSNSは何
百、何千人と繋がることができるはず
です。それなのに若い世代こそ繋が
り

薄くなり、孤独を感じているのです。

SNSは、共通の趣味や価値観を持つ人と繋がれることが大きな特徴です。そのため、閉じた世界でしかコミュニケーションを取らなくなり、社会との繋がりが希薄化していたり、いつでも関係を切れるという心理から、深みのない繋がりになっているっていったと考えられます。簡単に繋がることができる反面、相手を尊重する感情が薄れてしまったのではないのでしょうか。実際に私も、SNSで相手を傷つけるような攻撃的なコメントを見たことがあります。なぜ簡単に人を傷つけることができるのか。相手のことを心から思うことができれば、本物の繋がりであればそんなことはできないはずですよ。

先日行われたスポーツ大会。私たちのクラスでは、長縄を跳ぶ時のルールとして、「引っかかった人を責めない」と各チームで決めました。何かあっても誰かを責めないことは、皆で穏やかに、前向きに取り組む雰囲気作りには必要なことです。

もしも自分が引っかかったときに、多くの人から責められてしまったら、心が苦しくなってしまうと思います。皆で取り組む学校行事の成功のカギは、地動説の考え方なのだと思います。たとえ長縄が上手くいかなくても、試合に負けてしまったとしても、私たちは次の日も、同じメンバーで教室で授業を受けます。だから、何があってもお互いを思いやり、温かい雰囲気を作ることが大切なのです。

実際に対面で話すことがないSNS上で、相手のことを心から考えることは難しいことです。しかし、これからの未来の社会を担う私たちの世代こそ、人との繋がりを大切に、地動説の考えをもつ必要があると思います。そのために、まずはお互いを尊重すること。そして、自分の「当たり前」を疑い、様々な情報や価値観に積極的に触れること。例えば、SNSだけでなく、普段見ないニュースや自分とは異なる意見にも目を向けて、視野を広げてみましょう。一人一人が意識を

変えていけば、次第に「地動説」の考えになり、人との繋がりが深くなっていくはずです。

人との繋がりは人生を豊かなものにし、この世界をより良いものにしてくれます。皆さんも、もっと、繋がりを意識して生活してみてください。まずは、今、あなたの隣にいる人との繋がりを今よりももっと、大切にしていきましょう。

これからの時代と和菓子

甘楽町立甘楽中学校

三年 山口 啓太

私はある日、一つの不安を覚えました。「もしかしたら、和菓子屋という職業は無くなってしまいかのかもしれない。」なぜなら、日本の伝統産業の担い手が不足している、とニュースで知ったからです。私の両親は、和菓子屋を営んでいます。私も将来的には家業を継ごうと思っております。そこで、今からできることはないか、と考えました。この激動の時代を和菓子屋はどのようにして生き残ればいいのか、伝統をどう継承していけばいいのかを私は考えることにしました。

現在、少子高齢化に伴い伝統産業の担い手不足が深刻になっています。和菓子屋だけでも、直近二十年で百万社以上も減少しているというデー

タもあります。このままでは減少の一途をたどるだけのように思われます。ただでさえ、ピンチなこの業界。そこに、AIという人間に変わって仕事をやる技術が台頭してきました。このままでは和菓子という日本の誇るべき産業は衰退していくだけ、と思うと同時に、私は、このAIの台頭をチャンスと考えます。AIによって、基本的な事務作業やデータ処理、簡単な接客や機械の運転などは奪われてしまいます。しかし、和菓子などの伝統産業はどうでしょう。職人の熟練した技術が織りなす美しさ、これは奪われることはありません。また、日本人には元来、受け継いできた感性があります。豊かな自然や季節の移ろい、そこに調和した侘び寂びの世界。それを、菓子として表現するのが和菓子屋の使命です。しかしその感性も失われつつあります。現代社会にも通ずるこの感性を、果たしてAIは表現し、残していくことができませんでしょうか。これからの時代は、人が創った、ということに価値が生まれてくるので

はないでしょうか。私は、それが人々のニーズだと考えます。つまり、伝統産業はピンチでありながらも大きなチャンス秘めている業界である、私はそう思います。

日本の誇る伝統産業をどう残していけばいいのか。そのためには、SNSを利用して情報発信をしていくことも必要と考えます。先ほども言った通り、現在の課題としては担い手不足が最も大きいでしょう。興味を持ってもらわなくては、伝統を受け継ぐことはできません。だからこそ、多くの人に伝統産業について興味を持ってもらうためにSNSを活用して情報発信をしていくべきだと思うのです。また、若者の「和菓子離れ」も課題です。これは、私が身をもって体感しているものです。以前は、当店の顧客は多くが中年、高年層でした。時々しか十代、二十代の方が来店することはありません。しかし転機が訪れました。このような現状を打破すべく、SNSを活用して魅力を発信する取り組みを始めたところ、突然、

たくさん若い世代の方が来店するようになったのです。甘楽町の観光客増加と情報発信が相まって、この取り組みは大きな効果をもたらしました。そして思いました、これは和菓子を残していくための大きな「チャンス」だと。和菓子には素晴らしい魅力があります。先ほどから申し上げている通り、季節感を感じられる、日本人の美意識を表現したそのものです。若者にとって全く魅力がないわけではないでしょう。しかし、業界全体として、その良さを最大限に伝えることが出来ていないように感じます。SNSは莫大な影響力を持っています。若者に良さを伝えるためには、これを活用するほかはありません。多くの人に「和菓子って美しいな」「食べてみたいな」と思ってもらう、つまり多くの人の心を動かすことが和菓子という伝統を残していくために必要なことなのです。

このように、伝統産業も佳境を迎えています。残していくためには、従来の良さを残していくだ

けではなく、時代とニーズに合わせてすることも必要です。もちろん、先人たちが創り上げた素晴らしい技術を受け継いでいくことも必要なことでしょう。私は、日本の誇るべき和菓子、文化をこれからの時代に残して、さらに発展させたいと思っています。ただ、そのためにはみなさんのご協力が不可欠です。みなさんに日本の伝統について興味を持っていただかなければいけません。知るだけでもいいです。そうやって日本の文化を残していきたいという風潮や願いの輪が広がっていけば嬉しい、そう思っております。

伝統もまた、時代に合わせて少しずつ変化していくものであっていいと思います。ただ、伝統そのものを途絶えさせることは、あってはならない。みなさんも日本の伝統産業や文化の継承について、考えてみてはいかがですか？

勉強の必要性

甘楽町立甘楽中学校

一年 黒澤 千晶

みなさんは勉強はなぜ必要だと思いますか。私は正直に言うと課題やテスト勉強が大変で、「どうしてこんなに勉強をしなければならいんだろう」と思うことがあります。でも、いろいろと考えていくうちに、勉強には自分の将来に深く関わり、生きるために必要ないろんな力を育ててくれるものだと思うようになりました。

まず、勉強は将来の選択肢を広げるために必要だと思います。私は、大人になってどんな仕事に就くかはまだはっきりとは決まっていませんが、どんな道に進むとしても、ある程度の知識や学力が必要になると思っています。私ができることを実感したのは小学校四年生の時でした。将来就きたい職業について調べる時間があ

り、当時何も考えていなかった私は適当にいろんな仕事を見ていました。すると勉強が必要となる仕事がたくさんありました。しかも、興味を引いた仕事は医者や先生、エンジニアなどの専門的な仕事でした。それらの仕事に就くためには高校や大学でさらに勉強を続ける必要があると書いてあり、ある程度の知識や学力が必要になると実感しました。そのためには、今の中学生のうちから基礎をしっかりと身につけておくことが大切だと思いました。もし今の勉強をおろそかにしてしまうと、将来やりたいことが決まったときに「もっと勉強しておけばよかった」と後悔するかもしれません。

また、勉強は単に知識を増やすだけでなく、考える力を育てるものでもあると思います。例えば、数学の問題を解くとき、すぐに答えがわからなくても、どうすれば解けるかを考え続けることで、考える力や粘り強く考える力が身につけていきます。自分が解けた問題を、解き方がわからない子に説明すればわかりやすく説明する力も身につけていきます。間違えた問題で

も、どうしても間違えたのかを考え、次に生かすことができれば修正する力も身に付きます。また、国語の授業では、文章を読んで作者の思いを考えたり、自分の意見をまとめたりします。こうした経験は、日常生活の中で物事を判断するときや解決するときなどにも役立つと思います。

そして、勉強の中でよくある「暗記」も、ただ覚えるだけのものではないと思います。私は、単語や用語を覚えることが苦手で、初めのうちは意味もわからずに当てはめるだけになってしまいうことがありました。しかし、意味を考えたり、実際に使いながら覚えたりすることで、少しずつ理解が深まり、忘れにくくなることに気づきました。例えば理科では、用語をただ書くだけでなく、自分でわかりやすく整理したり、図や表を使って理解を深めたりして、より覚えられるようになりました。このように、暗記にも工夫や理解が必要であり、それが考える力にもつながっていくのだと思います。

さらに、勉強は自分自身を成長させるきっかけにも

なると思います。最初は苦手だった教科でも、努力を続けることで少しずつできるようになると、自信につながります。私自身も、英語は苦手な教科でしたが、毎日少しずつ単語を書いたり、声に出して読んだりするうちに、特に苦手だった単語のスペルも少しずつ覚えられるようになっていきました。そして、「努力すればできるようになるんだ」と実感しました。この経験は、勉強だけでなく、部活動やこれからの人生にも活かせると思います。

もちろん、勉強だけがすべてではありません。友達と遊んだり、部活動に打ち込んだりすることも、とても大切な時間です。しかし、その中でも勉強は、自分の可能性を広げるための土台になるものだと思います。今はまだその大切さを完全には理解できていませんが、将来振り返ったときに、「あのとき頑張ってたよかった」と思えるように、今できることを一つひとつ積み重ねていきたいです。

このように、勉強は学力だけでなく、人間性や考える力、判断する力、説明する力、工夫する力、理解する

る力、修正する力、解決する力、自分を成長させる力など、いろんな力を育ててくれるものでもあると思います。

私は、これからも、自分のための勉強として取り組んでいきたいと思えます。そして、将来の夢や目標を見つけたときに、自信を持ってその道に進めるように、今の努力を大切にしていきたいです。

言葉とは

甘楽町立甘楽中学校

一年 堀口 渚紗

私達は日々、当たり前に言葉を、意見を伝えるためにその手段を使っています。例えば、毎日人と会うと「おはよう」や「こんにちは」などの挨拶を交わしますよね。では、なぜ「言葉は存在しているのか」と私は考えました。

私は、思っていることを言葉にできないことがよくあります。本当は思っていることがあっても、上手く伝えられず、誤解をされてしまった経験があります。

小学校の修学旅行のことでした。私たちは、班になって、回ることになっていました。しかし、事前に計画表をつくっていたのですが、そのタブレットに入れたデータが通信できず、確認することができませんでした。それで考え直すことになりました。その時私は、

ある場所に行きたいと思っていました。しかし、その場所に行きたいと伝えられませんでした。理由は、その場所は、他の人で行きたいと言っている人がいなくて、勇気が出せなかったからです。そうして、私たちの班の考え直した計画にはその場所は、入れられませんでした。他にも、ある場所で見学したときに、その場所の中で見たいものがみんなバラバラでまとまらず、バラバラに行動してしまう事態になってしまいました。班はまとまって行動するルールでしたが、私たちの班はそのルールを守ることができませんでした。この修学旅行は、人生に一度きりの行事だったので、せめて、声をかけたり、「行きたい場所を伝えられたらよかったのにな」と後悔しました。だから、意見は勇気を出して伝えたいほうが、その事柄が改善されることもあると考えます。

また、言葉は、うれしい面もあれば、怖い面もあり、その感じ方は、人によって違います。例えば、人に感謝を伝えられたり、人を気にかけられたりすると、私はうれしいですが、中にはうっとうしいと感じる人や、

悲しくなる人もいるかもしれませんが、相手のことをなるべくわかっていようとして言葉を伝えた方が良いと思います。それは、SNSにもあることです。最近では、SNSが普及して、誰でもいつでもどこでも、言葉を伝えられる時代になりました。文化庁のある調査では、約九割の人が「SNSは言葉の使い方に影響がある」と回答されており、例えば、略語が増えたり、短い言葉が増えたり、新しい言葉が増えたりすることに影響があるとされています。また、「人を傷つける言葉が使われている」と感じている人も六割以上おり、「誤解を招く言葉が使われている」と感じている人も多いとされています。このことから、現代では言葉の使い方が大きく変化しており、その影響も広がっていると考えられます。SNSは一見とても便利にも思えますが、顔・声のトーン・動作などがわからないので、誤解されがちです。会うよりも簡単に伝えることができてしまい、一度いったことは消せません。だから、SNSでの誹謗中傷はすぐに伝わり、人を簡単に傷つけ、法的措置をとることもあります。使い方には十分注意

する必要があると思います。

このような経験から、私は言葉についての考え方が変わりました。以前は、言葉とは、文字や音で伝えるだけのものだったり、ただ思ったことを伝えるためのものだと思っていました。ですが、それだけではなく、言葉は人の気持ちを動かしたり、何気ない一言でも、相手に影響を与えてしまったりすると知りました。そして、言葉は、人を元気にしたり、傷つけたりすることもあるので、相手の気持ちを考えて話すことが大事だということも学びました。

これからは、自分が伝えたいことの意味や、相手の気持ちを大切にできる言葉を考えて話し、相手が困っていたら、言葉で寄り添えたらいいな、と私は思います。そして、言葉は人と人をつなげることができ、どんな言語でも、きっと人と人はつながります。ですから、言葉を使って伝えることは、とても大事なことで、私は考えます。

自分のありのまままで生きる

甘楽町立甘楽中学校

一年 町田 芽生

「男じゃん。」

学校のすれ違いざまに言われたその言葉が、私の心に深く、トゲのように刺さりました。

私は数年前、髪型をマッシュユヘアにしました。当時、私はネットで見たマッシュユヘアにひとめぼれし、私もそんな髪型にしたいという憧れを持つようになりました。私は何度も、スマホで「マッシュユヘア」と検索しました。でも、検索して出てくるモデルは、男の人ばかり。それでも私は、美容室で美容師さんに、「マッシュユヘアにしてください。」と頼みました。長かった髪が、どんどん切られていき、寂しい気持ちもあったけれど、完成した髪型を見たら、そんな気持ちなんてなくなり、ました。鏡の中の自分は、まさに、あの日見たマッシュ

ユヘアそのものでした。もちろんすぐに気に入って、「次の日学校でなんて言われるかな」と何度も想像しワクワクしました。

しかし、学校へ行くと待っていたのは、私の「好き」を否定するような言葉ばかりでした。

「男みたい。」「変なの。」友達からの言葉は自分を否定されたようで、悲しさと同時に、言葉にできないものもやした感情がこみ上げてきました。廊下でも、教室でも。私はどこに行っても、孤独を感じました。

私が私らしくいたいと思うのは、髪型だけではありません。私は普段、私服でもズボンばかりを履いています。なぜなら、動きやすくて、何より自分に似合っていると感じるからです。けれどそんな私の選択に対して、「もっとスカートとか履けばいいのに。」「女の子なんだから。」という言葉や視線を感じる事がよくあります。

ここで私は、たくさん疑問を抱きました。なぜ、ズボンばかり履くだけで、「女の子らしくない」と思われてしまうのでしょうか。なぜ、自分の心地よさや似

合いやすさより、性別のイメージが優先されてしまうのでしょうか。そもそも、「女の子らしさ」「男の子らしさ」って一体、誰が決めたものなのでしょうか。私は、そんな誰が決めたかもわからない「普通」というルールに合わせて、自分の「好き」を我慢しなければいけないのでしょうか。

ズボンを選んでいるのも、マッシュユヘアにしたのも、自分という人間を形作る、大切な一部だと思います。それを「性別」というたったひとつの物差しで測り、一方的に型にはめようとする世の中に、私は強い違和感を覚えずにはられません。

みなさんは自分のありのままでもいいと思いませんか。きっとみんな自分のままでいたいと思うでしょう。誰もが自分のありのままでもいいと思っていていると思います。でもどうでしょう。誰かのありのままに、自分の「普通」を押し付けていませんか。一方的に型にはめて、苦しめたりしていませんか。

「こうあるべきだ」という決めつけに苦しんでいる人はこの世の中にはたくさんいます。髪型や服装とい

った外見が、世の中の「普通」と少し違うだけで、変だと言われたり、思われたりしてしまう。そんな無意識の枠組みがあちこちで誰かの心を縛り、傷つけているのではないのでしょうか。

私は願っています。これから先、私たちが大人になってゆく中で、誰もが自分の「好きな色」を自由に選べる世の中になってほしいと。自分の好きを選んだ時に、誰からも笑われることなく、「いいね!」「最高!」などと認め合える社会に。一人ひとりが違う色・形を持っているからこそ、世界は豊かなのです。誰かの決めた「普通」という狭い枠に無理やり自分をはめる必要はありません。

「誰が何をどう言おうと、私は私のままでいたい。」誰かの言葉に振り回されて、自分らしさを消してしまうのは、とてももったいないことだと思います。私の「好き」と誰かの「好き」を宝物のように大切に、自分のありのまま生きていこうと思います。そして、誰もが相手の好きを尊重し、認め合える社会になることを望んでいます。

「ごめんなさい」よりも

「ありがとう」を

甘楽町立甘楽中学校

二年 堀込 彩光

みなさんは普段、家族や友達に感謝の気持ちを伝えていきますか。私は、家族には少し恥ずかしくて言えないことが多いです。なにかしてもらった時も心のこもった「ありがとう」はなかなか言えず、つい適当な言い方になってしまいます。でも、私がお家の手伝いなどをしたあと、家族は私に「ありがとう」「助かるよ」と感謝の気持ちをいつも伝えてくれます。振り返ってみると「あの時沢山ありがとうございました。そして今までの自分の行動を見返してみたら、心のこもったありがとうを全然言えていな

かったということに気づかされました。そして、これを機に感謝の気持ちを伝えようと考えてるようになった。うになりました。

先月の五月十日、日頃の感謝を伝える「母の日」がありました。この「母の日」が感謝の気持ちを伝えるチャンスだと私は思いました。毎年母の日では特別なことはできず、結局後悔して終わってしまいました。でも、今年こそはなにかプレゼントをしたいと思い、父に相談をしました。そしたら「お花とか母の日にいいんじゃない？」と相談に乗ってくれました。そして母に内緒でプレゼントを買いに行き、インシヤルの刺繍が入ったハンカチと綺麗な花束をくれました。それを丁寧に袋に包み、さらに手紙も入れて母に渡しました。母は少しびっくりしていたけれど、すぐに笑顔に戻って、嬉しそうにプレゼントを受け取ってくれました。その母の笑顔を見ると、「毎年ちゃんと感謝の気持ちを伝えられずに申し訳なかったな。でも今年は喜んでもらえて良かった」と後悔の気持ち

と同時に嬉しい気持ちがかみ上げてきました。母はプレゼントをじっくり見詰め、手紙も丁寧に読んでくれました。そんな母の目には少し涙が溜まっていました。普段あまり涙を見せない母が泣くくらい嬉しかったんだなと思うと、なんだか私も嬉しい気持ちになりました。母の日をきっかけに改めてありがたうの大切さを知ることができました。前よりも心のこもったありがたうを言えるようになり、過去の自分よりも一歩成長できたような気がしました。

また、私の周りには大切な友達やいつも見守ってくれている先生がいます。私は小学生のころから時々全校集会などで、ずっと立っている状態が続くと貧血で気分が悪くなり、倒れてしまうことがあります。今でもそのようなことが時々起こるのですが、そんな時、すぐに周りの友達や先生が駆けつけてくれて、涼しくなるように扇いでくれたり保健室に連れて行ってくれたりします。私一人のために沢山の人が一生懸命動いてくれる

のを見て、本当に心から感謝しました。そして、助けてくれた人に「ありがたう」と伝えました。たくさんの方が助けてくれたことが何よりも嬉しく、そしてちゃんと「ありがたう」と言えて、また一歩成長できたような気がしました。

人は「ありがたう」と言われた側よりも言った側の方が自分の幸福度があがると言われています。「ありがたう」はとてもポジティブな言葉だと思います。「ありませんか。ごめんなさいと言われるより、ずっと心に響きます。例えば「迷惑かけてごめんね」よりも「助けてくれてありがたう」の方が言われてうれしいと思いますか。少し言葉を変えるだけで人はポジティブになれると私は思います。場合によっては謝ることはもちろん必要ですが、ありがたうは悪かったことを受け入れフォローしてくれた相手に感謝する相手目線の言葉だと思います。日々の生活の中で、人は不満ばかり記憶に残りがちですが良かったことや嬉しかったことにも目を向け、その気持ちを相手に伝えるとい

うことを増やすだけで、周りもそして自分も幸せな気分になれると思います。なので皆さんもどんな些細なことにも感謝をして、心のこもったありがとうをこれからも沢山伝え、より良い人間関係を築いていきましょう。

明日への価値

甘楽町立甘楽中学校

二年 林 愛莉

「もし、十億円もらえるが、明日の朝、目を覚ますことはないと言われたらあなたは十億円もらいますか？」

私はある日このような動画を見ました。みなさんだったらどうしますか？ほとんどの人は「もらわない」と答えるでしょう。私はただ十億円をもらえるといわれたら快く受け取りますが、明日目を覚ますことがないといわれたら、絶対にもらわないです。このように私たちが当たり前のように迎えている朝には十億円以上の価値があるので

す。
私はこの動画を見たときある曲の歌詞を思い出しました。それは、優里さんの『ビリミリオン』と

いう曲です。「僕が生きるこの時間は五十億以上の価値があるでしょう。」生きていること、そしてまた明日があるということはお金には換えることができないかけがえのない大切なことだと私たちに伝えてくれているのだと思います。

私は空手道を習っています。空手を続けている中で、試合で負けて結果を残せない日が続いたり、先生に厳しく怒られたりして、「こんな人生なんて嫌だ」と思ったことがあります。しかし、それでもやめずに続けてきたからこそ、今の自分があります。最近では自分がずっと負け続けていたらイバルに勝ったり結果も残せたりするようになってきました。道場のOGからも「苦しい中よく頑張ったね。」と言ってもらいました。その時私はあの日々の努力は決して無駄ではなかったんだと心からうれしく思いました。

この経験から私は人生には辛いこと苦しいことがたくさんありますが、それだけで終わるわけではないと感じました。苦しい時間を乗り越えた

先には、きつと楽しいことが待っているはずでもしあの時「もう無理だ」と諦めていたら、今感じている達成感や喜びを知ることにはできませんでした。だからこそ、どんなに辛いときでも「明日」があるから頑張れると思います。

また、私は家族の大切さについて考えるようになりまし。私には二歳上の姉がいます。今年から姉は静岡で寮生活を始め、家を離れて暮らしています。今までは家に帰れば当たり前のように姉がいて、一緒に話したり、時にはけんかをしたりしていました。でも姉がいなくなってからその「当たり前」がどれほど大切だったかに気づきました。毎日顔を合わせられること、一緒に笑えることは決して普通ではないのだと思いました。だからこそ、たまに連絡をとった時や、久しぶりに会えた時はとても嬉しく感じます。「また会える」と思えることも、明日があるからこそ幸せなのだと感じます。家族や友だちと過ごせる時間はお金では表せない価値があるのです。

だから私は毎日目を覚ますことができるだけで、とても価値があることだと思います。もちろん生きていけば辛いこと苦しいこともあります。それでも新しい一日を迎えられるということは、それだけで大きな意味があります。私はこれから「今日をどう過ごすか」だけではなく「明日を迎えられることへの感謝」も大切にしていきたいです。

みなさんは今日の朝をどんな気持ちで迎えましたか？ただ眠いと思いつながら起きた人もいるかもしれません。でもその「いつもの朝」は十億円以上の価値を持っているのです。

私はこれから毎日を当たり前と思わず、一日一日を大切にしていきたいです。そして、苦しいことがあっても希望を忘れず、明日を迎えられることに感謝しながら笑顔で朝を迎えられるようにしたいです。

命の重み

甘楽町立甘楽中学校

二年 森田 花絵

「昨年の自殺者数は前年より減少し、一万九千九十七人でした。二万人を下回りましたが、小中高生の自殺者数は、統計開始以降過去最多の五百三十八人となりました。」私はこのニュースを見て「え？そんなにたくさんいるの？」と驚くと同時に胸がとても痛くなりました。皆さんはこの一万九千九十七人をどう思いますか？小中高生の五百三十八人をどう感じますか？私の住む甘楽町の人口は一万二千二百六十九人。甘楽中の生徒人数は、二百七十九人。比較すると、とても多くの方が亡くなっている事がわかります。私たちと同じように笑い、未来を夢見ていたはずの人がなぜ生きることをやめてしまったのか・・・なぜ尊い

命を自ら消してしまったのか。私には、考えても考えきれません。

私が改めて命と向き合ったのは、愛犬の死でした。十二年間一緒に過ごしてきた愛犬がある時、突然なくなりました。私が生まれた時から家だったので、お兄ちゃんのような、友達のような存在でした。私が学校から帰ると、「おかえり」と尻尾をブンブン振り、ニコニコして出迎えてくれました。お留守番中に雷がなって怖くなったときは二人で抱き合って過ごしました。しかし、ある日、一緒にソファァーでテレビを見ていると呼吸が深くゆっくりとなり、いつもはピンク色の舌が紫色になりました。急いで母と病院に連れて行くと、お腹のなかに血液がたまり、すでに手術はできない状態でした。今朝は元気に散歩に行ったのに、定期健診もしっかり受けていたのに。どうして？なんで？と私の頭の中は、パニックでした。その後、家族が集まり見守る中で愛犬は、静かに息を引き取りました。幸せだった毎日が突然崩れたよ

うな絶望感に襲われました。悲しくて悲しくて涙が止まりませんでした。何度も何度も抱きしめました。家族みんなで一晩中泣きました。もう泣いた顔をなめて、慰めてくれることもありません。体はだんだんと硬く冷たくなっていきました。私が今まで生きてきて、こんなに泣いたことがあったでしょう。心にぽっかりと大きな穴が空き、何も考えられなくなりました。しかし、だんだんと日が経つにつれて、私の心が変化していきました。不安なことや辛いことがあった時「あの辛さがあったから乗り越えられる」「あの思いを乗り越えたから大丈夫」と気持ちが変わっていききました。愛犬は自らの命で私に強く生きる力を与えてくれたのだと思いました。そして、私は、命のほかなさと尊さを知ることができたと思います。この悲しい経験がなければ、命について考えることはなかったかもしれません。また、命と向き合うということとは、決して簡単なことではないと改めて感じました。

私の祖父は今、がんと闘っています。私が五歳の頃にがんと診断され、それ以来毎日命と向き合っています。これまでに三回も大きな手術を受け、体は傷跡でぼこぼこです。口の中も手術を受けたので、硬い食べ物は食べられません。今も、抗がん剤の薬を飲み続けています。治療は辛く苦しいと思います。それでも日々自分の命に向き合い、強く生きる祖父を尊敬しています。一日一日を懸命に生きる姿が私に勇気を与えてくれます。命私の中にも、あなたの中にも命があります。命の重みや尊さは、目で見ることができません。しかし、その命は自分にとって最も大切な命です。そして、その命は自分ひとりのものではなく、周りの人や、これまで関わってきた人にとっても、かけがえのないものです。時には辛く苦しく逃げ出したくなることもあるでしょう。しかし、その経験はいつかあなたを支え、誰かを思いやる本当の強さに変わると思えます。あなたの命は、あなたを想う人の命でもあります。

ます。愛犬の死が私に命の尊さを教えてくれたよ
うに、祖父の闘う姿が私にエネルギーをくれたよ
うに、私たちは誰かの命から目に見えない大きな
力をもらっているのです。私は、自分の命とともに
に前を向いて歩んでいきたいです。

自分への挑戦状

甘楽町立甘楽中学校

三年 黒澤 美琴

「受験」。この言葉を聞いて皆さんはどんな気持ちになりますか？

中学三年生になった私たちは、「高校受験」という人生最初の大きな壁に立ち向かおうとしています。この間、学年集会で先生たちから高校についてのお話を聞いたときに「ああ、本当に受験生になったのだな」と強く実感しました。

正直な心境を一言で表すなら「不安」と言う言葉に尽きます。成績を上げるにはどうしたらいいのか。どうやって受験勉強を進めたらいいのか。何より私を一番不安にさせているのは、試験の後にやってくる「合格・不合格」という結果発表があるということ。きっと今、この場に居る同

級生の中にも私と同じような「不安」を感じている人が、たくさんいるのではないのでしょうか。

心を埋め尽くす「不安」というものに打ち勝つために、私は行動をしました。夜遅くまで机に向かったり、睡魔に襲われないように、夜中にコーヒーを何杯も飲んで勉強をしました。「勉強がはかどるように」という思いからの行動でした。しかし、これにはデメリットがありました。夜遅くまで起きていたせいで、朝に寝坊してしまい、朝ご飯を食べる時間がなくなってしまったこと。さらにコーヒーを遅い時間に飲みすぎたことが原因で、今度は夜の寝つきが悪くなるということも起こりました。体調を崩しかけた私は「これは健康によくないし、勉強の効率も悪くなってしまおう」と反省しました。「何か試しても上手くいかない」という現実に、私の不安はさらに大きくなってしまいました。

そもそも私は小学生の時から勉強が得意ではありません。教科書や問題集を開いても文字が頭

を通り過ぎて行くだけでした。机に向かう時間だけが過ぎていくのも珍しくありません。周りの同級生と自分を比較しては、焦りが増して、テレビやSNSでよく流れてくる「努力は報われる」という名言さえ、今の自分にはプレッシャーに感じてしまうこともありました。

そんなある日、私のいとこが家に遊びに来てくれました。いとことは「ヒーローごっこ」をしてよく遊んでいます。怪獣役の私が襲い掛かると、ヒーロー役のいとこは怪獣に堂々とした姿で立ち向かいます。いつものように遊んでいた時、いとこが言いました。「いつも襲ってくる怪獣を完全に倒すために、挑戦状を書いてやる！」「そのまますぐな言葉を聞いたとき、私は心が「ドキッ」としました。「そうだ、私も受験という怪獣を自分に書かれた挑戦状だと思えばいいんだ」そんな考えが頭に浮かんだ瞬間、心が軽くなりました。いとこの何気ない無邪気な一言が受験に対する見方を変えてくれました。そこで、私が思いついた、

自分への挑戦状に書かれた戦いを二つ紹介します。

一つ目は、「自分の怠けた心と戦うこと」です。今までの私は、少し勉強したらスマホで動画を見て「明日やればいいや」と言い訳を作って勉強から逃げていました。ただ逃げているだけでは何も変わりません。誘惑に負けそうになる自分と戦うのが最初のミッションです。

二つ目は、毎日決められた時間に机と向き合い、少しずつでいいから、勉強をするのを習慣づけることが大切です。簡単に思えるかもしれませんが、継続できるかがミッションとなります。

この二つの挑戦を意識するようになってから少しずつ、苦手な教科でも解ける問題が多くなり「なるほど、こういうことか!」「解けた!」という実感が増えてきました。この達成感、逃げずに机に向かった自分への最大のご褒美です!

受験とは、「合格・不合格」が全てではありません。「将来なりたい自分に近づくための大切な通

過点」です。今、苦手な勉強から逃げずに向き合うことで、私達を大きく成長させてくれると私は信じています。

二〇二七年の春。私は第一志望の高校の制服を着ていたいのです。自分との戦いはもう始まっています。不安がいきなり消えることはないし、勉強が急に得意になることはありません。それでも私は、第一志望の制服を着た姿を想像し、成長した自分に出会えると信じて一歩ずつ前へ進み続けたいです。

みなさんも、この大きな壁を越えた先にある自分の姿を想像し、自分に届いた挑戦状と戦うために、前進していきませんか？

